

CONTENTS

1. クリスマン村活性化の考え方（アンケート結果まとめのポイント）
2. 活性化を見据えた全体的な計画のフロー
3. 教会堂再建計画の考え方とコンセンサス
4. 具体的な計画の進め方（案）
 - 1) 教会堂再建の方向性・可能性確認
 - 2) 実行計画の体制構築と計画立案
 - 3) 教会堂再建・活性化の為の具体的な計画（案）
 - 4) 全体計画の進め方とタイムフレーム（例： 目標期間 → 2年計画）
 - 5) 計画実現の為のステップとゴール（目標）
5. 将来プランのイメージ（案）

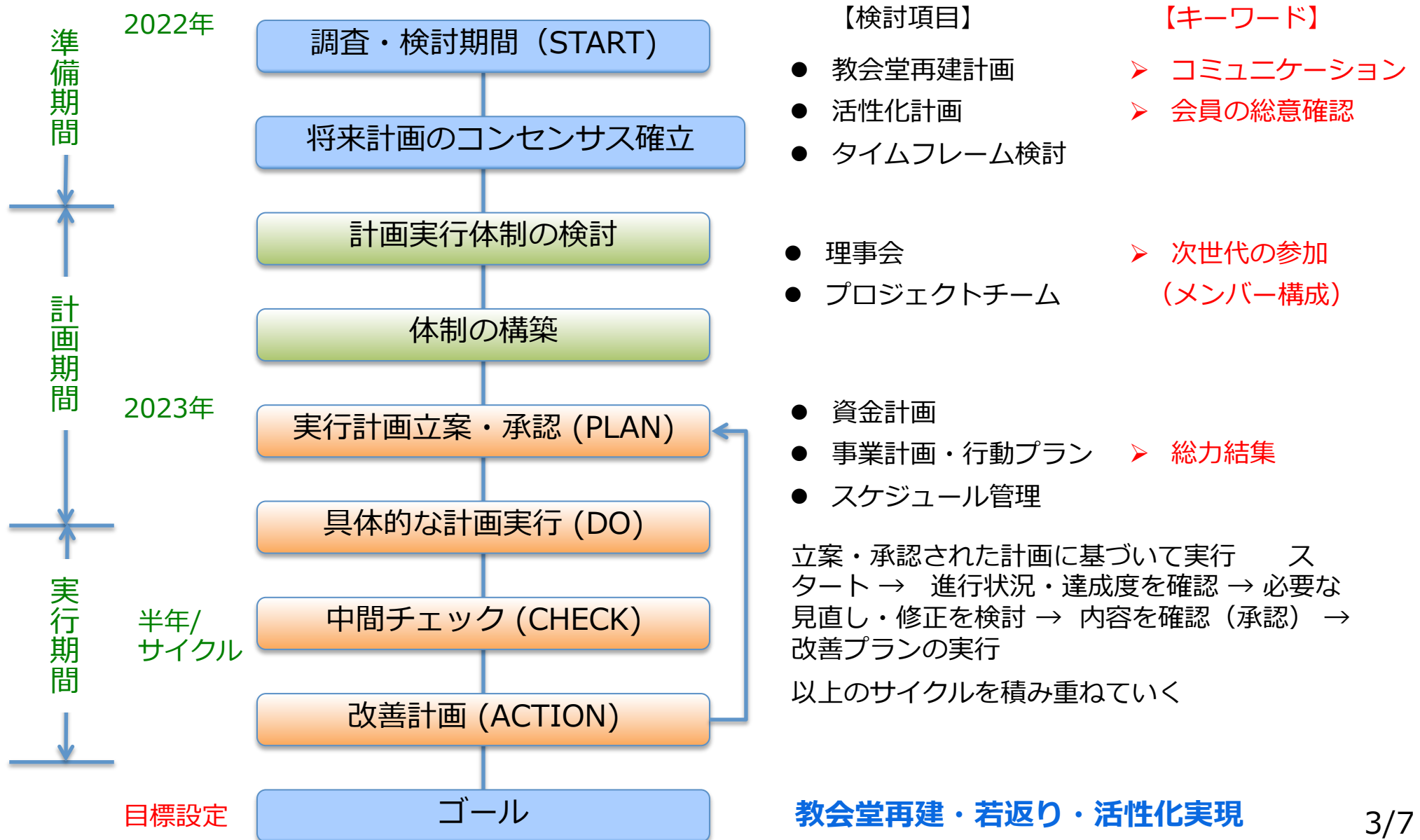
1. クリスマン村活性化の考え方（アンケート結果まとめのポイント）

2021年末に行われた「クリスマン村会員の現状調査アンケート」の集計結果から、次の4つの項目が**重要な必要性**として浮かび上がってきたと考えます。

- 1) 山荘の利用人数が減る傾向があり、後継者が決まっていないケースもあって、今後更に**会員が減る可能性**がある → **クリスマン村の現状と現実認識を共有化していく必要性**
- 2) 大多数の会員が**世代交代の必要性を感じている** → **具体的な実行に移していく必要性**
- 3) **高齢化・会員数の減少**に対して何らかの手を打つべきだが具体的な対策が講じられておらず、村の活性化には具体的な対策案が必要 → **クリスマン村会員一人ひとりにとっての課題と捉えて具体的な計画を立てていく必要性**
- 4) **クリスマン村の活性化**には「ホームページ・会員ページの有効利用」、「第三世代の運営への参加」、「行事や SNS を通じてのコミュニケーション緊密化」等が大切 → **意識的・積極的に実行していく必要性**

これらはいずれも「**世代交代**」がキーポイントとして関わってくるテーマです。これから「教会堂の再建」が検討され計画される事になりますが、それには「世代交代」や「活性化」などの「方向性」を考慮して進めていく事が大切で、それはまさに「これからの将来を見据えた新しい考え方と進め方（未来）」を見つけて行くことに他ならないと思えます。これからは「**クリスマン村の活性化**」と「**教会堂の再建検討**」を「**池の平クリスマン村の全体的な将来計画**」というテーマとして検討して行く**必要がある**と考えます。

2. 活性化を見据えた将来計画のフロー（概要）



3. 教会堂再建計画の考え方とコンセンサス

2022年2月の教会堂倒壊以来、「教会堂の再建をどうするか」というテーマはすべての会員にとっての最大の関心事です。建物の再建には資金が必要であり、「資金計画」が前提となります。自己資金でどれだけまかなえるのか、あるいは資金調達を行うのかによって進め方は大きく変わって来ると思います。

- 1) 自己資金のみで考える → 金額は？ → どの程度の再建が可能か？ → 資金に見合った設計
- 2) 公的支援の可能性を探る → 情報収集・調査・検討
- 3) 寄付を募る（個人の寄付・クラウドファンディングなどの方法） → 情報収集・調査・検討

それぞれの方法についての判断には「ケーススタディー」が必要になりますが、この「ケーススタディー」の検討には「新しい発想」が望まれます。

→ 現在の理事会にとどまらず、若い世代を含む広範囲の有志によるワーキングチーム・プロジェクトチームを結成し、理事会との連携で具体的な行動をスタートさせる事が出来れば、世代交流・世代交代のきっかけとなり、将来的なクリスチャン村の活性化につながる可能性があると考えます。

4. 具体的な計画の進め方（案）

1) 教会堂再建の方向性・可能性確認

- 理事会で検討 → 【教会堂再建計画】案
- 2022年 8月の総会で討議・方針決定
 - 教会堂の再建案
 - 資金計画
 - 実行計画

2) 実行計画の体制構築と計画立案

- 教会堂再建計画とクリスチャン村の将来計画はとして会員の総意を集約して【将来計画】として進める事が望ましい
- 【将来計画】については「コンセプト」を明確にして、具体的なテーマを整理する
- テーマごとにタイムフレーム（短期・中期・長期計画）を設定して目標期限を決め、進行状況を確認しながら進める
- 実行にあたっては、理事会メンバーに加えて「若手中心のプロジェクトチーム」を結成し、「全クリスチャン村協力体制」で臨む（例： 教会堂再建プロジェクトチーム結成 → 総会前にメンバーを募り総会で承認）

3) 教会堂再建・活性化の為の具体的な計画案

- 理事会の提案 → 総会での討議 → 決定した方針をもとに、必要に応じてプロジェクトチーム・ワーキングチームなどを結成し、具体的な計画を立ててアクションをスタートする
- 教会堂のコンセプト（予算・イメージ・基本設計）案を複数作成 → 2022年内
- 計画案をホームページで発表し意見を募る
- 会員の総意で方向性決定 → 2023年初旬

4) 全体計画の進め方とタイムフレーム案（例： 目標期間 → 2年計画）

- PLAN → DO → CHECK → ACTION サイクルを約半年に設定し、計画の妥当性、進行状況、目標の修正、体制の強化や変更を進めて行く

5) 計画実現の為のステップとゴールの案（目標）

- 2022年： 計画立案・実行体制整備
- 2023年： 実行計画立案
- 2024年： 目標達成（教会堂再建・活性化の可視化）を目指す

5. 将来プランのイメージ（案）

【コンセプト】

- クリスマン村の基本理念を維持しつつ「より開放的な雰囲気」をつくる（ビジターセンターや近隣への訪問者にも気軽に関心を持たれる親しみやすいイメージ）
- 近隣の遊歩道を整備しクリスマン村周辺の散策をしやすくする（知ってもらう）
- 教会堂は「シンボルゾーン」のような形にして「訪問者にも開放的な休憩の場」にする
→ 興味のある訪問者には連絡先登録の上で村の中を散策可能にする（新会員募集につなげる）

【教会堂・シンボルゾーンのアイディア（例）】

- 固定の構造はいもり池側に「壁面」と南側の「倉庫スペース」のみをコンクリートで建築
- 北側と妙高山側の2方向は開放構造とし、屋根はテント構造にして夏季のみ設置する
- オープンスペースには通常ベンチシートとテーブルを自由なレイアウトに設置し休憩できるようにし、日曜日には礼拝用にベンチシートを並べる
- 案内板にクリスマン村の紹介と会員募集の情報を掲示し、QRコードで登録して村内の散策ができるようにする

